ニュース専修

●「専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819（直）

国際コミュニケーション学部
千代田学「永田町ツアー」

街歩きで歴史と多様性学ぶ
メキシコ大使館、市民団体と連携

永田町駅に近接する旧李王家邸を見学

国際的・歴史的施設やその跡が数多く残る千代田区永田町を巡る「永田町ツアー」が1月25日に行われ、国際コミュニケーション学部の1～3年次生8人と井上幸孝教授、小林貴徳准教授が参加した。市民ボランティア団体「江戸東京ガイドの会」の案内で、JR四ツ谷駅から山王日枝神社まで歩き、政治の中枢だけではない、永田町の文化的多様性に触れた。

旧彦根藩井伊家中屋敷跡地のホテルニューオータニや、大久保利通の哀悼碑が建つ清水谷公園、旧李王家邸、赤坂御門の黒田家普請の石垣などを見学。川俣力徹さん（3年次）は「何気なく歩いている街を別の視点で眺めてみると、そこには豊かな歴史や物語があることが分かり興味深い」と街歩きを楽しんでいた。

ツアー後半にはメキシコ大使館を訪問。コスメ・ガルシア政治担当書記官から、日本とメキシコの交流の歴史についてレクチャーを受けた。

3年次生はスペイン語で質問し、両国の関係性や課題について理解を深めた。日本の若者の印象を問われたガルシア書記官は「コミュニケーションの面も含めて困難や失敗を恐れずチャレンジする傾向にあり、国際的な活躍が期待される」と答えた。

来年度、メキシコに留学する塚田萌さん（1年次）と髙橋春姫さん（1年次）は「メキシコでも日本の漫画が人気だというので、ポピュラーカルチャーを入り口にして交流したい」「言葉や文化が異なる世界に飛び込むことの大切さを再認識した」などと語った。

ツアーは、千代田区の「千代田学」に今年度採択された「文化的多様性を持つ千代田区の国際性に関する調査・研究」（研究代表：根岸徹郎教授）の一環で実施された。

3月には、1年間の調査・研究の成果を展示、報告するイベントを開催する。

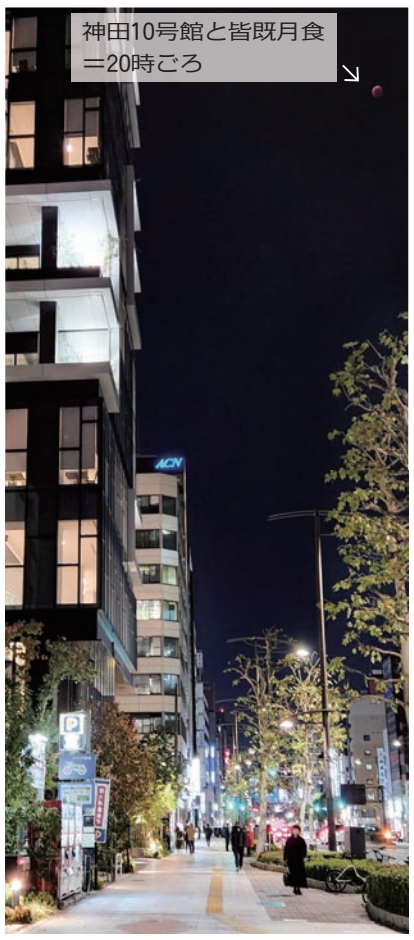
ガルシア書記官（左）に質問する学生

皆既月食を撮影

二部開講科目の科学論で「ミクロの視点で見る世界」をテーマに学ぶ学生3人が、昨年11月の皆既月食の観測を通じ、スマートフォンなど半導体技術の進歩を実感する授業を受講した。

11月8日の6限目、秋月誠樹さん（二部商4）、今西悠斗さん（商1）、浅野大地さん（商1）と大井万紀人法学部教授の4人は、神田キャンパス周辺で観測と撮影に挑戦した。学生たちは「スマホを月に向けただけでこんなにきれいに写るなんて予想以上だった」と話した。

観測の詳細は2022年度自然科学研究所所報に掲載される。


神田10号館と皆既月食＝20時ごろ

約5分間隔で撮影した皆既月食の経過記録＝18時30分ごろから神田1号館前でスマホを直接月に向けて撮影

学生会が大学に寄付
今年度末で活動終了へ

妙圓薗委員長（左）から佐々木学長に目録が手渡された

二部3学部の学生で作る専修大学学生会が今年度末で活動を終了することとなり、1月13日、学生会執行委員長の妙圓薗優也さん（法4）が佐々木重人会長に報告。学生会費の残金を大学に寄付した。

二部は2019年度を最後に学生募集を停止。同年に入学した学生の多くが本年度で卒業することから、21年度後期の学生大会で活動終了を議決。昨年末には神田キャンパス1号館地下のサークル部室を大学側に返還した。

こうした経緯を大橋英夫二部学生部長が説明。佐々木学長は「今後も二部に残る学生に対しては、最後の一人が卒業するまで責任を持って教育を行っていく」と語った。

また、学生会では21年にチェア募金として500万円を寄付。神田キャンパス10号館11階の5教室の椅子の整備に充てられ、寄付者のプレートが教室前に設置されている＝写真。今回新たに学生会費残金220万616円を大学に寄付することとして、同日、妙圓薗さんが佐々木学長に目録を手渡した。

妙圓薗さんは「最後の入学者である上にコロナ禍も重なり、いろいろな意味で濃密な4年間だった。結果的に最後の開催となった19年の神田鳳祭に実行委員として関わったことが一番印象に残っている。同級生や先輩にはさまざまな立場の人がいて、一緒に学びながら多様な価値観に触れることができた」と振り返った。1950年設立の学生会の幕を下ろすための作業を担った。「積み重ねられた歴史を改めて確認できた。チェア募金をしたことで、学生会の名が神田キャンパスに刻まれたことは誇らしい。今回の寄付金もぜひ学生支援のために活用してほしい」と語った。

神田における夜間大学の殿堂
二部94年の歴史

専修大学における二部（夜間）教育の歴史は古い。1880（明治13）年の創立時、本学は経済学科の授業を15時30分から、法律学科の授業を18時15分から行っている。その意味では専修大学は、夜間学校としてスタートしたといえよう。

大学教育において、現在のような一部（昼間）・二部（夜間）制が確立するのは、1918（大正7）年の大学令の公布以降のことである。本学は他大学よりやや遅れて、29（昭和4）年度になって大学部に二部制を導入する。専修大学二部の始まりである。

隆盛を迎えるのは戦後のことで、特に65年前後には、全学生数の約3分の1にあたる3000人を超える学生数を擁するほどになる。戦後に限れば14万人を優に超える卒業生が社会へと羽ばたいていった。

本学二部の特色として特筆すべきは、勤労者を積極的に受け入れていったことである。高度経済成長期、大学進学率の大幅な増加にともない、二部にも一般学生が殺到し、仕事をしながら勉強をしたいと願う人々が入学できないという状況に陥ってしまう。そこで専修大学が打ち出したのが二部定員の40%を「働く学生」のための入学枠とするという方針であった。すべての人々に学ぶ機会を平等に与えたいという創立者の理念は二部に受け継がれたのである。

51年9月1日に発行された『専修大学新聞』には、専修大学は「働きかつ学ばんとする青年勤労者のため」の学校で、「東京神田に於ける夜間大学の殿堂」と記されている。二部の存在が専修大学においていかに重要であったか。この言葉はそれを示している。（大学史資料室　瀬戸口龍一）

1972年ごろの講義風景

2022年度卒業式・学位記授与式のご案内

日時：3月22日（水）

午前の部　10:00 開式予定
午後の部　14:30 開式予定

経済学部（一部・二部）
法学部（一部・二部）／経営学部
経済学研究科／法学研究科
経営学研究科／法科大学院
商学部（一部・二部）／文学部
ネットワーク情報学部
人間科学部
文学研究科／商学研究科

場所：日本武道館（東京都千代田区北の丸公園2－3）

■学部生は、武道館内で学位記の交付を行います。
■ご家族の入場は、卒業生・修了生1人につき1人とさせていただきます。

主なニュース

専大松戸高　2年ぶり2度目のセンバツ出場……❷
未来を語るフューチャーデザインプログラム……❸
【高大連携】和洋九段女子高生がゼミに参加……❹
神奈川産学チャレンジ　最優秀賞に5チーム……❺
石巻専修大学　少年健全育成協力の2人に感謝状……❼

おことわり
マスク未着用の写真は撮影時のみ外しています

お知らせ

「ニュース専修」3月号は3月24日（金）発行予定です。

最新の情報は大学ホームページ、公式twitter、Facebookでご確認ください。